

令和6年度教育活動について、教職員による自己評価を行いましたので、下記の通り公表いたします。

1. 本園の教育目標

・「あかるく」「ただしく」「なかよく」の実践

1. 知識及び技能の基礎を身につける

豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになったりする。

2. 思考力、判断力、表現力等の基礎を身につける

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

3. 学びに向かう力、人間性等の基礎を身につける

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・園児が安心して多くの経験を得て、成長できる安全な教育環境の整備をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育環境を見直し、改善を図る	A	園児の具体的な活動をもとに教職員が話し合い、評価、課題抽出、改善を実施した。
2	安全環境の改善のために、園内研修を充実させる	A	年8回の園内ワークショップ、巡回相談を活用して環境の改善につなげられた。
3	多くの経験を得られるよう教育課程や行事を見直す。	A	教職員により教育課程、行事を見直し、園外のスポーツクラブでのプール指導、運動会種目の見直し等を行い、運動能力の向上に資することが出来た。。

評価 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	園内のワークショップ（保育、行事、保育環境について話し合い、改善策を実施して、評価する）の回数を5回から8回に増やし、それぞれの評価項目に対して正職を中心とした教職員で評価、見直しをすすめ、具体的な改善をできた。

評価 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育機能の充実	保護者、地域の保育ニーズにこたえるため、実態の調査をして分析、実践をして保育機能を保持向上させる。
2	安全管理	不審者対応のマニュアルを教職員間で共通理解し、緊急時の対応や意識の向上をはかり、園内安全環境を高める。
3	幼小接続	保幼小実務者連絡協議会を活用し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの理解、構築、運営に努める。具体的には屋城小、前田小、東秋留小の教職員と具体的な話し合いの場を持ち、教育の接続を図る。

6.学校関係者評価

上記の自己評価を受けて、父母の会役員による学校関係者評価を受けましたので、公開いたします。

①学校関係者評価 父母の会役員により評価

②評価及び講評

	評価項目	評価	評価の理由
1	教育環境を見直し、改善を図る	A	日々の保育、行事について先生方が話し合いを行って、よりよい教育環境を目指していると感じます。保育が必要な家庭は増えていると思うので、これからも保育環境を整備してほしい。
2	安全環境の改善のために、園内研修を充実させる	A	専門士による巡回で個別に見てもらえている。先生方が話し合って環境整備を進めている。援助の必要な子どものために絵カード等いろいろと用意していただけています。
3	多くの経験を得られるよう教育課程や行事を見直す。 1. 外部のスイミングスクールでのプール指導回数の増加の導入。 2. 総合的な運動活動としてストライダーの活用。	A	普段の遊びでストライダーで安全に遊びながら運動能力を身につけられ、良かった。 ストライダーはルールをみにつけられてよい。 スポーツクラブのプール指導の回数が増え、子どもにとってとてもありがたかったです。 専属コーチによるプール指導を受けられてよかった。 セントラルでのプールの回数を増やしてもらえてよかった。水に慣れてきました。